

氏名	兼宗美幸	部署	看護学科	職名	准教授
研究分野	母性看護学・助産学				
学位	修士(学術)84号				
学歴	1986年千葉大学看護学部看護学科、2000年文教大学大学院人間科学研究科修士課程生涯学習学専攻				
経歴	1996年埼玉県立衛生短期大学看護学科講師、2005年埼玉県立大学保健医療福祉学部助教授、2007年埼玉県立大学保健医療福祉学部准教授				
所属学会(役職)	日本看護科学学会、日本母性看護学会、日本母性衛生学会、更年期と加齢のヘルスケア学会、日本女性医学学会、日本女性心身医学会、日本看護研究学会、日本看護教育学会				

### 【2018年度実績】

1. 研究業績					
	著作・論文・学会発表等の名称	単著・共著の別	(1)発行所、全ページ数 (2)雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ (3)学会名、開催都市	(1)(2)著者、編者名 (3)発表者(発表者は○印)	発行・発表年月
(1) 著作					
1	該当なし				
(2) 論文					
1	母体・胎児集中治療室(MFICU)入院中の切迫早産妊婦への看護 第1報 —看護の実際とアセスメント—	共著	日本母性看護学会誌、18(1)、-(査読終了発刊待ち)	○野中悠、大月恵理子、兼宗美幸	2019.3(予定)
(3) 学会発表					
1	母体・胎児集中治療室(MFICU)における産後ケアの現状と課題について	共著	第20回日本母性看護学会学術集会、越谷市	○野中悠、兼宗美幸、大月恵理子	2018.6
2	看護中間管理者による妊娠・育児期にある助産師のワーク・ライフ・バランス支援の現状と課題の認識	共著	第20回日本母性看護学会学術集会、越谷市	○濱田愛理、兼宗美幸	2018.6
3	中山間地域で助産師が行う育児支援活動の現状と課題	共著	第20回日本母性看護学会学術集会、越谷市	○坂本めぐみ、兼宗美幸	2018.6
4	「婦人科見学ツアー報告会」前後での医療系女子大学生の受診に対する自己効力感の変化	共著	第20回日本母性看護学会学術集会、越谷市	○土井希実、兼宗美幸	2018.6
5	キャリア後期にある女性看護師の職務継続の要因とヘルスプロモーション行動	共著	第20回日本母性看護学会学術集会、越谷市	○兼宗美幸、坂本めぐみ	2018.6
6	Maternal and Child Health Issues and Necessary Perinatal Care in Hilly and Mountainous Regions in Japan - Interviews with Nurses and Other Professionals	共著	第5回日中韓看護学会、東京	○Megumi SAKAMOTO, Miyuki KANEMUNE, Emiko NISHIOKA	2018.9
7	更年期女性の更年期症状評価尺度に対する国内外の比較	共著	第33回日本女性医学学会学術集会、岐阜市	○高橋真理、日置智華子、永谷実穂、兼宗美幸	2018.10
(4) その他					
1	更年期女性の更年期症状評価尺度に対する国内外の比較検討	共著	第15回医療看護研究会、浦安市	○高橋真理、高島えり子、日置智華子、永谷実穂、兼宗美幸	2019.3
2. 競争的資金等の研究					
	競争的資金等の名称	研究名、研究代表者・研究分担者の別			研究期間
1	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究C)	中山間地域における妊産婦の健康支援サービスの構築(研究分担者)			2016.4~2020.3
3. 教育業績					
	講義・演習・実習・論文指導等の名称	期間	概要(教育内容・方法等において工夫した点)		
(1) 講義					
1	遺伝と看護	2018.10~2018.11	前年度の学生の意見や感想を踏まえ、学習状況に応じてワークの進め方を調整した。ゲストスピーカーに依頼内容をより具体化した。		
2	母性看護学Ⅱ	2018.10~2018.12	WebClassを活用した授業方法に変え、学生中間アンケートの感想や意見を踏まえて内容やレイアウトを修正した。		
3	リプロダクティブヘルスと看護	2018.10~2019.2	担当単元について前年度の学生の感想や意見を踏まえて内容を精査し、資料及び方法(性暴力被害者支援映像の活用)を改善した。		
4	母性看護学Ⅰ	2019.1	担当単元について前年度の学生の感想や意見を踏まえて内容を精査し、資料及び方法(具体的なDV被害者支援の説明)を改善した。		

(2) 演習				
1	分娩期のケア	20.18.4～2018.8 演習全体を通して、学生の到達状況に応じ、自信を高めるようにポジティブなフィードバックに注力した。		
2	母性看護学Ⅲ	2018.11～2019.2 学生の課題の達成状況やつまづきに着目して、課題やその解決方法に気付くようフィードバックを行った。		
3	周産期のケア	20.18.10～2019.2 科目全体を通して、学生の到達状況に応じ、意欲を高めるようにポジティブなフィードバックに注力した。		
4	卒業研究	2018.4～2019.1 学習環境を工夫して研究指導を行い、効果的に論文作成を進めることができた。		
5	リプロダクティブヘルス論(前期課程)	2018.4～2018.6 「性暴力と被害者支援」を担当し、理解状況を確認しながら、研究と実践の視点から文献を用いて解説した。		
6	看護学演習(リプロ)(前期課程)	2018.10～2019.1 生涯を通じた女性の健康と勤労者や疾患を持つ人に関連する課題と支援について、研究と政策の視点から文献を用いて解説した。		
(3) 実習				
1	母性看護学実習	2018.5～2018.6 実習目標の到達状況に応じ、達成感を高めるようにポジティブなフィードバックに注力した。		
2	助産学実習Ⅰ	2018.5～2018.6 実習目標の到達状況に応じ、自己の課題を認識できるようフィードバックに注力した。		
3	総合実習	2018.7 実習目標の到達状況に応じ、自己の課題の改善方策や新たな課題を認識できるようフィードバックに注力した。		
4	助産学実習Ⅱ	2018.8～2018.10 実習目標の到達状況と心身の健康状態に合わせて、臨床との協力体制を新たに作りながら指導をすすめた。		
5	IPW実習	2018.8～2018.10 施設との協力体制を新たに作りながら、学生の自主性を高め、達成感を高めるようFTを行った。		
(4) 論文指導				
1	修士課程1年1名	2018.9～2019.3 副指導として院生の論文作成を支援した		
2	修士課程2年1名	2018.4～2019.2 副指導として院生の論文提出を支援し、修了した。		
(5) その他				
1	学内科目担当(性と生殖)	2018.4～2018.7 WebClassを活用した授業形態に変更するため科目責任者である非常勤講師と連絡を密にとり、支障なく開講することができた。		
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会等の講師				
	講演会、研修会等の名称	主催	講演、研修等のテーマ	開催年月
1	専門職講座「臨床家のための看護研究セミナー」	看護学科教員研究グループ	研究計画書作成	2018.5～2018.12
2	看護実践専門分野研修会	埼玉県看護協会	思春期の性 基礎編	2019.02.
3	平成30年度女性のための健康セミナー	越谷市保健センター	更年期とうまく付き合おう-未来予想図を描こう	2019.02
(2) 国、自治体、財団法人等における委員等				
	国、自治体、財団法人等の名称	委員等の名称	任期	
1	認定特定非営利法人 こしがやともろう	理事	2017.7～2022.7	
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容	年月	
1	該当なし			
5. 学内運営(委員会委員)				
1	大学院保健委員(感染症対策部会・禁煙化部会)			
2	保健センター員			
3	男女共同参画推進委員会 相談員(妊娠・育児関係)			
6. 受賞(研究、教育、社会貢献活動に関するもの)				
	受賞名	主催	受賞年月	
1	該当なし			
7. 特許の保有状況				
	特許名	特許番号	登録年月	
1	該当なし			
8. 特記事項				
1	該当なし			